

発表の場としての
市美術協会展

阿南市美術協会会長

霜田 精奏さん

阿南市では、春と秋に阿南市美術協会の主催で美術展を開催している。春は憲法記念日、秋は文化の日を中心に3日間の会期で実施している。この美術展は昭和37年（1962）頃、市内在住で書道・洋画・写真・工芸彫刻などを制作し、県展や中央展に出品していた人たちが、阿南市に少しでも美的文化の香りを届けたいとの思いから同好会を結成して始まったものと記憶している。当時は市内に適当な展示場所も少なく、富岡公民館・阿南信用金庫などをお借りしながらの美術展であった。それから半世紀を過ぎ今年で59回展を迎えた。

市制が発足した昭和33年、阿南市の美術文化意識の醸成に市当局も積極的に応援して下さるとのことです。澤田 紋市長を名誉会長に、近藤高能さん・三間喬樹さんが中心と

なり、市教育委員会の職員が事務局となって活動が始まった。

昭和40年、阿南市役所の新庁舎が完成した折には、市に日本画9点、洋画17点、書13点、写真10点、計49点（40人の作品）を寄贈した。また、この新庁舎の完成によって4階を展示場として使用させていただくことができ、すっきりとした展示ができるようになった。出品者の数も当初はそれぞれの部門で同好の士を誘い合っていたものが、だんだんと増加。昭和55年に会則も整備し、年会費500円を納入した方は全て会員として出品していただくように市民に開放していった。第20回頃には160人260点くらいまでの開催規模に成長してきた。展覧会の運営は各部門ごとに選ばれた理事さんによって会場の設営・作品の搬出入・展示などを行っている。また、この展覧会はその成り立ちからも分かるように落選はなく、出品された作品は全て展示される市民の作品発表の場としての展覧会である。

昭和46年には生け花・芸能・短歌・俳句などのグループ活動も活発になり、小中学校の「学童展」とも合同して秋の一大イベントとして「第1回阿南市文化祭」を市教育委員会社会教育課が事務局になって

開催することとなり、美術協会展も春と秋の二度開催することになった。平成11年（1999）、現在の文化会館が建設され、さらに展示場所も整備されすっきりとした展示ができるようになった。ホールとともに文化活動の拠点となっている。

人生100年時代といわれ、多くの人がカルチャー教室などで文化活動に取り組んでいると思われるが、そういった方々の発表の場として市内の皆さまに支持されている。令和3年春の美術協会展は新型コロナウィルス感染症の影響により中止となったが、秋の文化祭の美術展は久しぶりの開催ができ、多くの方からの出品があった。展示期間中もたくさんの方の観覧者があり、大変うれしい阿南市美術協会展となった。

（現在、秋の文化祭は阿南市文化協会が主催する行事となっている。）

あなん文化紀行は
偶数月号に掲載します。

